

JECC 2015 年度優秀保守技術者表彰式典を開催

保守技術者の日ごろの努力を称え、感謝



挨拶する中村社長

JECCは10月8日、東京・経団連会館カンファレンスにおいて、「2015年度優秀保守技術者表彰式典」を開催した。「情報化月間」の一環として毎年行っている行事で、今年44回を迎えた。式典には、今年度の優秀保守技術者に選ばれた25グループ、標語・感想文の入賞者が招待され、JECCの中村薫社長から表彰された。

表彰式典は、お客様のコンピュータ・システムの安定稼働を維持するために、トラブルを未然に防ぐ予防保守活動をはじめ、万一故障があった場合、昼夜の区別なく休日も返上し、システム復旧のために努力している保守サービス技術者や、支援関係者の日ごろの努力を称え、感謝するもの。JECCが1972年から実施している。

優秀保守技術者として表彰されたのは、ユーザー及びメーカーから高い評価を受け、推薦された25の担当保守グループのメンバー235名。各グループから代表1名が出席し、表彰を受けた。合わせて、JECCが募集した「保守サービス向上月間標語」（応募数1万9,990編）の中から

選ばれた最優秀賞1名と優秀賞4名、「保守サービスに関する感想文」（同528編）から選ばれた最優秀賞1名、優秀賞3名も表彰を受けた。

式典ではJECCの中村薫社長挨拶の後、表彰が行われ、来賓の経済産業省商務情報政策局の荒井勝喜情報政策課長、一般社団法人電子情報技術産業協会の水嶋繁光会長の代理として川上景一常務理事が祝辞を述べた。また、受賞者を代表して、三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社統合運用フィールドサービス統括部カスタマサービス第二部関西カスタマサービス第一課の泉谷弘之氏が挨拶を述べた。

そして、早稲田大学大学院商学研究科教授谷口真美氏が「ダイバーシティマネジメント 多様性をいかに企業の人材戦略とは」をテーマに記念講演を行い、ダイバーシティを活かすためには何をすれば良いのかについて語った（講演要旨は、7～8ページに掲載）。

中村薫社長の挨拶（要旨）

政府におかれましては、10月を「情報化月間」と定め、情報化に対する正しい理解と認識を深め、健全な情報化の進展を図ることを目的に、毎年全国各地において、多彩な行事を実施しております。

私どもJECCにおきましても毎年10月を「保守サービス向上月間」と定め、弊社賃貸資産の保守サービス状況を総点検するとともに、システムの安定稼働に日夜ご努力をいただいております保守技術者の方々、並びに、保守サービス向上に関する標語及び感想文の優秀作品に入賞された方々の表彰を行っています。

昼夜を問わず、お客様のITインフラをお守りする皆様の保守サービス業務は、社会にとって欠くことのできない最重要の仕事であり、そのご努力は、弊社の保守状況調査においても、お客様からの高い評価として表れております。メーカー各社様並びに保守サービス各社様のご支援と、保守サービス技術者の皆様の多大なご努力に心より敬意を表し、本表彰を受けられる皆様の栄誉と日ごろのご努力、ご労苦に心から敬意を表するとともに深く感謝を申し上げます。

さて、弊社は今月10月15日から、さいたま市に関東支店を開設し、北関東・信越・北陸エリアにおけるさらなる営業力強化、効率化を図ってまいります。弊社は、ブランドスローガンの「ITとファイナンスを、プロデュース。」を实践する企業として、お客様にご満足いただけるように尽力してまいりますので、皆様方のより一層のご指導、ご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

経済産業省 商務情報政策局

荒井勝喜情報政策課長の祝辞（要旨）

本日、「優秀保守技術者の表彰」を受けられた皆様、また「保守サービス向上月間標語」及び「感想文」に入賞された皆様、誠におめでとうございます。

現在、世界のあらゆる分野で情報技術が使われており、ビジネスや我々の日々の生活の利便性、そこから社会へ向けた課題の解決、経済の発展、すべてが繋がっていると考えております。また、IoTやビッグデータ、人工知能のAIなど、まさにありとあらゆるものがネットワークにつながり、そうしたネットワークの中で新しいビジネスやサービスが生まれ、それがさらに実際の社会で実用化され、ますますIT技術の重要性が増しております。そうした中で、これからの日本が迎えるさまざまな問題が、こうした技術によって解決されていくのであろうと思っています。これはすなわち、IT社会の安全・安心の重要性がますます高まっていくということであり、まさに皆様が日々取り組まれておりますITネット



「保守サービス向上月間標語」
最優秀賞の表彰を受ける
北島一男氏（左）



「保守サービスに関する感想
文」最優秀賞の表彰を受ける
中川ももこ氏（左）



挨拶する経済産業省の
荒井勝喜情報政策課長

ワークの保守・点検が日々の生活の安心・安全、経済の発展を支えているといっても過言ではないと思っております。

また、本日表彰されました皆様の感想文を拝読させていただき、素晴らしい意識や精密さを感じ取りました。ぜひ

これからも世界のIT技術の安全・安心のために、さらなる保守技術や顧客サービスの向上に期待しております。本日は誠にありがとうございました。

一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA） 川上景一常務理事による同協会会長祝辞（要旨）

本日は、第44回優秀保守技術者表彰式典が、このように盛大に開催されましたことをお慶び申し上げるとともに、伝統ある賞の受賞者として表彰を受けられた皆様に、心よりお祝い申し上げます。

情報技術は、生活に深く浸透し、重要な社会基盤として、私たちの日常においてハードとソフトが快適に使えることが当たり前ようになっております。それを実現しているのは、受賞者の皆様をはじめ、本日ここにお集まりの皆様方の常日ごろの保守サービスの提供によるものであり、皆様方の日ごろのご努力に深く敬意を表します。

昨今、CPSあるいはIoTが大きな話題になっており、

CEATEC JAPANも今年からCPS/IoTをメインテーマとしております。CPS/IoT社会の実現に向けては、今後、データの利活用がさまざまな分野でこれまでとは異なる広がりや深さで進展すると予想されます。それに伴って、インターネット上でやりとりされるデータの量が飛躍的に増大し、セキュリティ強化を含めた安全・確実な情報処理が求められることになり、それらを実現するためには皆様方の役割がますます重要になってまいります。

皆様方におかれましては、このような将来展望の下で、保守サービスのさらなる向上を通じ、CPS/IoT社会の実現と我が国の情報技術の発展に今後とも貢献されるよう、お願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

受賞者代表の泉谷弘之氏挨拶（要旨）

本日は、私たちのためにかくも盛大な表彰式典を開催していただき、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

先程来より、株式会社JECC取締役社長中村様をはじめ、



挨拶する電子情報技術産業協会
の川上景一常務理事



受賞者を代表して挨拶する
三菱電機インフォメーション
ネットワーク株式会社の
泉谷弘之氏



表彰式典終了後に記念撮影する受賞代表者一同

ご来賓の皆様からの心温まるご祝辞と励ましのお言葉を賜り、身に余る光栄と存じ、受賞者一同深く感謝申し上げます。

私ども関西カスタマサービス第一課は、近畿2府4県のお客様へネットワークを主とした保守サービスを提供しております。所属しております各技術者は、統合運用フィールドサービス統括部の基本方針である「お客様の安心と信頼」を確かなものにするともに「お客様にとっての価値を創出する」を実現するために、日々技術スキルと作業品質の向上に努めてまいりました。

今回、2013年度より3カ年計画で進めてまいりました某

電力会社様ネットワーク切り替え作業において、お客様からのご依頼に対して柔軟に対応し、高品質なサービスを提供し続けたことに対して、お客様をはじめ各関連会社様より高い評価をいただきました。これからも、お客様の真のパートナーとして、価値あるサービスを提供して行くために、誠心誠意努めてまいり所存であります。

私たちは、本日の栄誉を深く心に刻み、この賞の名に恥じることはないよう、さらなる自己研鑽に努めてまいります。今後とも、ご列席の皆様方よりなご一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、感謝のご挨拶とさせていただきます。

記念パーティー



挨拶する経済産業省の
渡邊昇治情報処理振興課長



挨拶する経済産業省の
三浦章豪情報通信機器課長

優秀保守技術者表彰式典に続いて、記念パーティーが開催された。優秀保守技術者として表彰されたグループの代表者と標語・感想文の入賞者、各受賞者の所属する保守会社の社長や役職者、来賓など多数が参加した。

はじめに、経済産業省商務情報政策局の渡邊昇治情報処理振興課長が登壇。「先日、IoTやAIについての資料を作成した際、90年代には大先輩方がさまざまな業界を巻き込んだ大きな施策が打たれていた事実を再確認し、発想の大きさに驚かされると同時に自己反省をした次第です。今後も2020年の東京オリンピックはもちろんIoTやAIなど、皆様の活躍する場所が広がるばかりだと考えております。これからのますますのご活躍を期待しております」とお祝いの言葉を述べた。

続いて、経済産業省商務情報政策局の三浦章豪情報通信機器課長が、「IoT、AI、ビッグデータなどのIT技術が世の中を大きく変えつつある中、それらの仕組みをたどっていくと本日表彰をされた皆様がそれぞれの現場を支えていらっしゃるのだと思っております。また、皆様の作文を読ませていただき、現場を支えていらっしゃる皆様の日々の努力のおかげで、社会インフラが円滑に機能していると感じ、あらためて感謝の念を抱きました」と乾杯の発声を行った。参加者たちは、情報交換や記念撮影などをしながら、和やかな歓談のうちに親睦を深めていた。



近況報告や情報交換を行いながら、親睦が深められた